



特集 その後どのように暮らしていますか？

草木が彩るless is moreな家

特集 その後どのように暮らしていますか？

草木が彩るless is moreな家

東京都国立市 | 木造一戸建て (i-works) | 中村邸 (ご夫婦 + お子様1人)



1

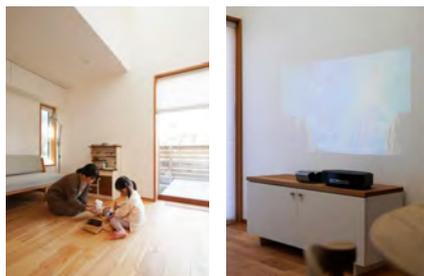
ストーリー

今回ご紹介するのは、竣工から2回目の春を迎える中村邸。当社設計部の中村健一郎さん自らが設計し、奥様と娘さんの3人でお住まいです。建築士の自邸と聞くと、どんなお宅なのか気になるのですが「特別なことはしようとは思わなかったですね」と健一郎さん。目指したのは「ちょっとだけ格好がつく普段着の家」だそう。賃貸の団地に手を入れながら暮らす中で「東京オリンピックを我が家で見よう!」とご夫妻で思い立ち、同じ国立市内で土地を探し始めました。この場所はやや予算オーバーでしたが、駅から徒歩圏内のため「車を持たないことで今後想定していた車の維持費を土地代に回わせるかなと」(健一郎さん)、購入。どうしても欲しかったという庭は、造園家・小林賢二さんに依頼し、隣家が迫る南側ではなく、道路側で開けた北側に設けました。「鳥や猫が遊びに来るんですよ」と奥様。様々な変化がある庭の話題で、自然と会話が増えるそう。夏に収穫したブルーベリーをジャムにするなど、四季折々を楽しむ中村邸の夏と冬の様子をご覧ください。



2

吹き抜けがある のびやかなリビング



1

1.2階図書室とつながる吹き抜け。2.窓前が娘さんの遊ぶスペース。3.プロジェクターは画面サイズを変えられるのも◎ 4.ハンス・J・ウェグナーのソファ。アングルボイズのフロアランプも厳選アイテム。

2

3

4



豊かなお庭に面した1階の北側がリビングです。リビングは奥様ご希望の吹き抜けや、緑を望む大きな窓のお陰で開放的。窓を開け放つとリビングとデッキがひと続きになり、外と一体に。優しい陽を届けてくれる高窓からは「夜には月や星が見えるんですよ」と奥様が教えてくださいました。北側で

吹き抜けもあると冬の寒さが気になりますが、OMソーラーの補助暖房のみでも、裸足で過ごすほど暖かいそう。中村邸にはテレビがありません。その代わりに、プロジェクター用に設けた白くて広い壁に投影。かつての旅先で気に入り探したハンス・J・ウェグナーのソファに腰掛けて、

テレビや映画を見るのが一家の楽しみです。以前はエレベーターがない4階にお住まいだったため、娘さんとお出掛けが大変で外が遠のいていたそう。現在は気軽に掛けられる環境となり、近所の図書館や畑にほうれん草を収穫しに行くなど、戸建の暮らしを満喫していらっしゃいます。

3

住まいのみどころ

ライフスタイルに 対応する2階空間

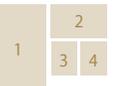


図書室と将来の子ども部屋は、アール天井の吹き抜けを介してリビングとつながります。娘さんが小さいうちは空間を仕切らず、奥様が奏でるメロディーに合わせて娘さんが歌ったり踊ったり、ハンモックに揺られたり、のびのびとお住まいです。

1.畳敷きの図書室。窓から見えるようヒメシャラを配置。2.インテリア性が高い電子ピアノは、カリモク家具とローランドのコラポ製品。3.娘さんはハンモックが大のお気に入り。4.広がりのある子ども室の奥には、こもって落ち着いた雰囲気のある寝室。



1.暮らしに華を添えるこいずみ道具店のカップや桜の茶筒など。2.キッチンは炊飯器やトースターがなくスッキリ。3.板張りの洗面脱衣室も収納充実。4.奥様のデスクがある2階WIC。



お気に入りだけの ミニマルな生活

マットや必要以上の家電がなく、常に片付いた状態の中村邸。たくさん設けた収納は、無印良品のケースが収まるように奥行きを深くしたのがポイントです。物数が少ない分、一つひとつのセレクトにこだわり、旅の思い出などが詰まっています。

取材後記

ベランダもない中村邸。奥様は当初ベランダがない暮らしを想像できなかったと言いますが、花粉症なこともあり「乾燥機があれば十分」という考えに至ったそう。物が溢れる我が家を見つめ直すいい機会に。取材へのご協力をありがとうございました！（記：ライター大川）



設計：中村健一郎 施工：相羽建設
造園：小林賢二アトリエ
写真：西川公明 撮影取材・編集：伊藤・大川・猪股
ainohaバックナンバー <http://aiboeco.co.jp/100story/life/>



特集 その後どのように暮らしていますか？

木々を望み デッキで近所とつながる家



特集 その後どのように暮らしていますか？

木々を望みデッキで近所とつながる家

ソーラータウン八国山(東京都東村山市) | 木造ドミノ住宅 | H邸(ご夫婦+お子様1人)



1

初めてソーラータウン八国山を訪れた春の頃

ストーリー

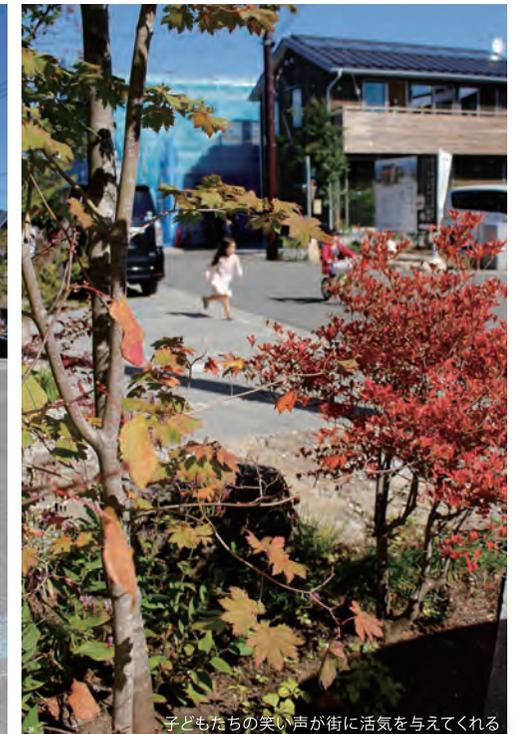
今回ご紹介するのは、当社が分譲するソーラータウン八国山の一角に佇むH様邸。ご夫婦と娘さんの3人でお住まいです。持ち家からの住み替えで、娘さんの小学校入学に間に合うようにと、建売を探されていました。「家に入った時の雰囲気や開放感が良かったんです。別の場所にあっても決めていたくらい」と笑う奥様。無垢のフローリングや和紙などの自然素材と、陽に包まれる心地良さから即決されたそう。ただそれまで八国山がある東村山を訪れたことはなく、職場が遠くなるのがネックでした。それでも「山が見える街並みがいいなと思って」とご主人。アウトドアが趣味ということもあり、田舎暮らしも考えたものの、仕事など現実的なことを考えると、東村山がちょうど良かったと振り返ります。近所には娘さんと同年代の子どもがたくさん。街区内の道路にチョークで絵を描いたり自転車に乗ったり、娘さんもこちらの暮らしに満足している様子です。日々どのように過ごされているのか、休日の過ごし方や住まいの見どころなどを伺いました。



木張りの外壁が印象的なソーラータウン八国山の一角



小さな自転車の足元にはかわいらしいチョークの落書き



子どもたちの笑い声が街に活気を与えてくれる

2 陽が降り注ぐ 2階LDK



1

1.2.キッチンの棚は入居前に増設。窓前が奥様の作業スペースです。3.ご夫婦で選んだ雰囲気のある照明が食卓を照らします。4.キッチンからの眺め。屋根裏収納のお陰で空間がスッキリ。

2

3

4



「特に2階のLDKからの眺めが気に入りました」と奥様が教えてくださった通り、大きな窓からは脇を流れる北川沿いの木々が見え、室内でも川のせせらぎが聞こえます。家具はすべてお手持ちだったものですが、この空間に合わせて選んだかのよう。優しい木の素材感とマッチしています。水廻り

も2階にあり、洗濯が終わったら日当たりのいいバルコニーへ一直線です。以前の住まいは水廻りが1階、物干し場3階と離れていて「階段の上り下りが大変だったんです」とご主人。家事動線が短くなったのも良かったと言います。キッチンの小窓からは、前面道路で遊ぶ娘さんたちの姿が見えます。

「以前は家の周りで遊べる場所がなく、休日になると子どもを連れて出掛けていましたが、この家に住んでから遠出しなくなりました」と奥様。

取材時は入居から2ヶ月ほどでしたが、ソーラータウン八国山での暮らしにすっかり溶け込んでいく様子でした。



3 住まいのみどころ



1.3.4.外が気持ちいい季節には、イスとテーブルを出してランチをとることも。2.近所のお友だちが気軽に集まれる場所です。



家の中と外をつなぐ デッキと縁側

暮らしの変化を伺うと「娘の休日の過ごし方がすごく変わりました」と奥様。動画を見る時間が減り、デッキや家の前で遊ぶ時間が増えたそう。大人たちも縁側に腰掛けて雑談したりビールを飲んだり、デッキのある暮らしを満喫していらっしゃいます。

ライフステージに 合わせられる間取り



1階は入居前、がらんどうでしたが、壁を設けて寝室をつくりました。「建売だけど、壁が仕切られていなくて注文住宅に近い感じがよかったです」とご主人。現在フリースペースとして広々とお使いの空間も間仕切りが可能で、後々は娘さんの部屋もつくる予定です。



1.2.一角に設けられたご主人の職場。3.娘さんの遊び場とは本棚でゆるく仕切っています。4.陽だまりができる窓前にはOMソーラーの床吹き出し口があり、冬場も暖か。



取材後記

ソーラータウン八国山に着くと、外で遊んでいた子どもたちが大きな声で挨拶をしてくれました。H様ご一家が引っ越してすぐに八国山ソーラータウンの方が花火大会を開催してくれたというエピソードも素敵です。ほのぼのとしたひと時をありがとうございました！（記：ライター大川）



設計・施工：相羽建設
撮影取材・編集：伊藤・大川・猪股
ainohaバックナンバー <http://aiboeco.co.jp/100story/life/>





特集 その後どのように暮らしていますか？

手を入れながら愛着が深まる家



特集 その後どのように暮らしていますか？

手を入れながら愛着が深まる家

東京都国立市 | 木造一戸建て(木造ドミノ) | 佐々木邸(ご夫婦+お子様2人)



1

ストーリー

今回で紹介するのは、竣工から10年目を迎えた佐々木邸。当社メンテナンスリフォーム部の佐々木清さんと奥様、2人の子どもたちのお住まいです。竣工して間もない頃に『ainoha vol.2』でも掲載しました。前回掲載時と比べて、庭の緑が濃くなり、木の家と馴染んでいます。「『となりのトトロ』に出てくるような、茂っているけどいい雰囲気の家になるといいなと思って」と奥様。ジュンベリーやさくらんぼ、ゆずなど、実がなる木が中心です。それでも「鳥に先に食べられちゃって。アイツらしい頃合いを狙っているんですよ」と清さんは笑います。佐々木邸は梅林や湧水で知られる「谷保天満宮」に近く、周辺に緑が多い環境。この場所を選んだ大きな理由です。「社員寮に住んでいたので、いつか出なきゃと自然な流れで家づくりを進めていましたが、引渡しの際に当時の社長から“お引渡し状”をいただくなど、家づくりに対する皆さんの想いを感じて感動しましたね」と奥様は振り返ります。竣工当時はヨチヨチ歩きだった子どもたちが、今や中学生と小学生に。こちらの住まいでの10年間や住み心地を伺いました。



2

夢を繋げられる 広い玄関とLDK

玄関を上がると、庭に面した明るいLDKが広がります。玄関は土間が広く、LDKとの仕切りの引き戸を開け放つと一層の大きな空間に。大きな引き戸にしたのは“将来カフェ化計画”の一環。お客さんが大勢来ても、入口からカフェスペース（現LDK）に入りやすいようにするためです。「谷保天満宮の参拝客が多いのに、この辺はお店がなかったの、カフェにしたプランも描いたんですよ」と清さん。「当時は若かったんだな」と笑います。「建てるんだったら色んなことを想像して、色んな可能性があったら楽しいねって主人が。そんな風にして建てたおうちなので大事だし、住んでいて愛着もあるし。夢を実現できるように建てられて良かったなって思います」（奥様）。食事や団欒、宿題と、ほとんどの時間を大きな円卓周りで過ごすのが佐々木家のスタイルです。「僕は寝室にいるかソファにいるか。ソファにいると“そこに親父がずっといるから仕方ない”って子どもが良い距離感を保ってくれて。思春期ですけどコミュニケーションが取れています」（清さん）。



キッチンから、家族の様子や庭を見て料理できることが奥様の希望。

- | | |
|---|--|
| 1 | 1. 楕円の円卓は「laboratory」でオーダー。2. 「シンク、コンロ、冷蔵庫が三角にまとまり使いやすいです」と奥様。3. 子どもの作品。4. 奥様が集めた雑貨や緑。 |
| 2 | |
| 3 | 5. エアコンはキッチン棚の中に。 |
| 4 | |
| 5 | |



3

住まいのみどころ

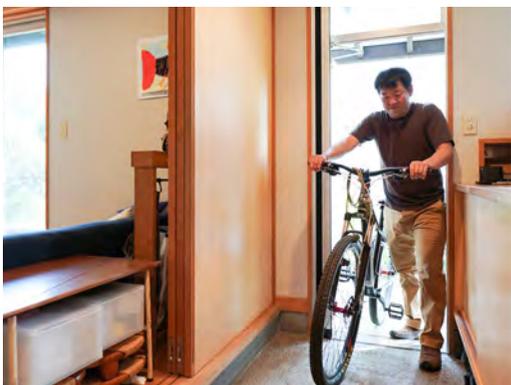
成長と共に生まれる それぞれの居場所

2階の一角が娘さんのスペース。壁を設けて個室にすることも可能です。アウトドアが趣味の佐々木家。特にスノーボードがお好きで、ワックス掛けに広い玄関土間が活躍。小屋裏では息子さんがゲームをするなど、LDK以外で時間も楽しんでいらっやいます。

1・2娘さんのスペース。3・4奥様のミシンコーナーで『ainoha vol.2』に掲載した写真を再現。5玄関は清さんの自転車を置ける広さ。6固定階段で行き来しやすくした畳敷の小屋裏。木造ドミノ住宅の三角屋根を活かしてスノーボードが収納されています。



ainoha Vol.2 表紙より



手を入れながら 愛着が増す木の家

この10年間、フローリングにワックスを掛けたり、土佐和紙の壁上に家族みんなで湯布珪藻土を塗ったりと、手を加え続けています。「日々手を入れていくことで、おうちを自然と愛するようになりますね」と奥様。



1.大きな窓から庭が眺められる浴室。定期的なお手入れのおかげでとても綺麗。2.柱には成長の記録が。3.円卓は定期的に回してムラなく経年変化。4.床は杉材。10年経っていい色艶に。



取材後記

竣工から10年、暮らしと木とが馴染んでいる様子が素敵でした。新築にはない風合いが家族の歴史を物語ります。清さんがオススメしてくださった「谷保天満宮」。湧水が流れる川が気持ちいいそうで、じっくり散歩してみたいです。休日の貴重なお時間をありがとうございました! (記:ライター大川)



設計・施工:相羽建設
撮影取材・編集:伊藤・大川・猪股
ainoha/バックナンバー <http://aibaeco.co.jp/100story/life/>



特集 その後どのように暮らしていますか？

鳥のさえずりと緑に包まれる家



特集 その後どのように暮らしていますか？

鳥のさえずりと緑に包まれる家

東京都東村山市 | 木造一戸建て(建売分譲) | K邸(ご夫婦+お子様1人)



1

ストーリー

今回で紹介するのは、入居から約1年経ったK様の住まい。“「人」と「こと(暮らし)」を大切に
にする家”をコンセプトにした建売の提案住宅「ヒトコトの家」を購入し、ご夫婦と幼稚園に
通う娘さんの3人で暮らしていらっしゃいます。登山などアウトドアが趣味のK様ご一家。田
舎暮らしに憧れつつも、ハードルが高いと感じていました。そんな中、狭山公園をはじめとし
た豊かな自然と、交通利便性とのバランスが取れた“ちょうどいい田舎”、東村山の環境を知
り、惹かれるように。物件を探中で相羽建設と出会いました。奥様は駅から距離があり、
スーパーが近くにないことを気にしていましたが、現地を訪れると意見が一転。裏山の緑に
囲まれたロケーションに「これは引越す価値があると感じました」とご夫婦揃って一目惚
れ。「全てを飛び越えるものがあつたんです」(ご主人)。四季が移ろい、エントランス脇の草
花や庭先の野菜がすっかり馴染んだ住まい。お気に入りポイントや現在の暮らしぶりを伺い
ました。



2

バルコニーと一体の 2階リビング

K様邸は1階が個室、2階がLDKと水廻りという間取り。リビングからつながるバルコニーは約5帖もあり、もうひとつの部屋のよう。天気の良い日にはテーブルを出して食事をしたり、ハンモックを張ってくつろいだりと、+αの空間を満喫していらっやいます。「前の住まいより床面積は減りましたが、こちらは無駄がない間取りで、前より広々過ごせています」と奥様。他の建売住宅とは違い、細部まで工夫が見て取れた点も購入の決め手となりました。また、自然素材でつくられていることも大きかったと言います。娘さんは幼稚園の先生に「木の家に引っ越したんだよ」と自慢気に話していたのだとか。ご主人は凹凸がある無垢のフローリングがお気に入り。「裸足だと感触が気持ちいいんです。冬でも暖かいので裸足のまま過ごせます」。以前は2007年竣工の建売でしたが、冬は外と同じ気温で寒かったそう。「この家は冬、エアコンを切ってもしばらく暖かいです。夏は一度エアコンを付けて、窓を閉め切っていた方が涼しいですね」とご主人。窓が多い住まいでも結露せず、快適にお住まいです。



お気に入りの場所を尋ねると「ここ!」と教えてくれた娘さん

- | | |
|---|---|
| 1 | 1.屋根裏収納のお陰でLDKは広々。2.キッチンの造り付け収納は市販ケースがびっったり。3・4・5.キッチン前は絵本コーナー、側面は娘さんの作品ギャラリーに。 |
| 2 | 3 |
| 4 | 5 |



3 住まいのみどころ



1.大きな窓に面したダイニングスペース。2.小窓からも緑を望みます。3.ハンモックに寝転べば森林浴気分。4.窓の外に見えるのは楓。



▲
家のどこからも
光と緑を感じる

水まわりも含め、すべての部屋に窓があるのもお気に入りポイント。ダイニングスペース横の窓の外には緑地が広がり、梅や紫陽花など、色とりどりに変化する景色を楽しめるそう。ウグイスやキツツキなど小さなお客さんも、季節の変化を教えてください。

豊かな自然も 家の一部



コロナ禍の外出自粛時には「周りにお散歩コースがあってよかったです」と奥様が振り返ります。庭の畑ではミニトマトや枝豆、テールビーツなどを栽培。娘さんは自分で採ったものだとよく食べるのだそう。畑にどう手を加えていくかが今後の楽しみです。



1.少しぬかるんだ裏山の道も娘さんは慣れて。2・3.近隣では梅や山椒の実などが採れるそう。この日はよもぎを収穫。4.庭の畑は畝がある本格的な造り。



取材後記

K様邸に着き、車から降りた瞬間、鳥のさえずりが、都心からアクセスがいい場所なのにと驚きました。お散歩ができない雨の日は、LDKの広い壁にプロジェクターを写して映画を見たりしてお過ごしだそうで、周りの環境や住まいを満喫している様子が伺えました。
(記：ライター大川)



設計・施工：相羽建設
撮影取材・編集：伊藤・大川・前田・猪股
ainoha/バックナンバー <http://aibaeco.co.jp/100story/life/>

